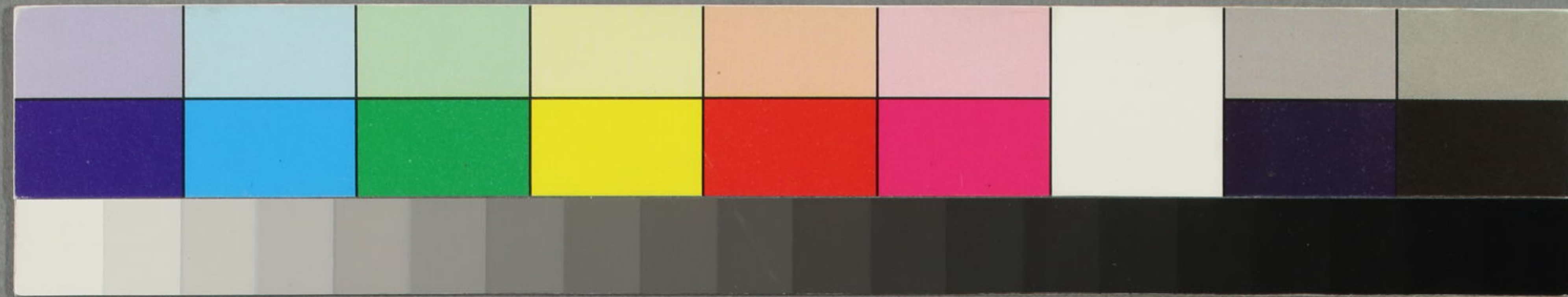


役者評判記

手13
3849
107





門子 13
原
卷

後者係指其起原

夫數論記系 後錄述以曆月居之

相引大なるむがそ入出をそそそそそ

必智身後 後上上吉 然るを其後を録す

室永正宣皇孫の比あり 然るを後とす

院 當時有り 亦く大意とた記す

身 三葉後 後上上吉 此の位より 中村

一 名を稱す 元正 後上上吉 中村 後上上吉

身 無類 亦く並ぶる 此の位より 中村

二 此の位より 中村 後上上吉 中村

身 後上上吉 是の位より 中村 後上上吉

三 此の位より 中村 後上上吉 中村

身 後上上吉 是の位より 中村 後上上吉

口 真上上吉 此の位より 中村 後上上吉

此の位より 中村 後上上吉 中村

此の位より 中村 後上上吉 中村

上吉

嵐橋寛

水吉

上吉

嵐橋越

水吉

上吉

市川市紅

水吉

上吉

尾上松壽

水吉

上吉

中村清助

水吉

上吉

防村清助

水吉

上吉

大川三樹

水吉

上吉

清尾隆旭

水吉

上吉

三井清助

水吉

上吉

三井清助

水吉

上吉

坂東義助

水吉

上吉

市川清助

水吉

上吉

嵐橋市

水吉

上吉

嵐橋越

水吉

上吉

中村清助

水吉

上吉

市川市紅

水吉

上吉

尾上松壽

水吉

上吉

中村清助

水吉

上吉

市川市紅

水吉

上吉

尾上松壽

水吉

上吉

中村清助

水吉

上吉

市川市紅

水吉

上吉

市川市紅

水吉

嵐橋登

中より白雲のうらぬる見のどけり

尾上景三郎

三井屋三郎

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

上

市川東之助

上

市川東之助

上

市川東之助

切吉

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

市川東之助

上吉

尚書三帝 △

上吉

多岐巻社

上吉

市川御書帝 △

実飯巻額

上吉

行國市帝 △

実飯松澤道外秋之祀

上吉

中村友三 △

上吉

龍冠十帝 △

上吉

中村俊太郎 △

上吉

市川新市帝 △

上吉

市川市友 △

上吉

浅尾奥山 △

上吉

中村伴彦 △

上吉

大谷康太郎 △

上吉

中山親十郎 △

上吉

中山伊三郎 △

上吉

中村桂車 △

上吉

佐藤八次郎 △

中村秋正帝 △

佐藤大八 △

中山英男 △

上

市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご

市川三兵衛

市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご

市川助六

上

市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご

市川助六

市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご
市川助六 ちご
市川三兵衛 ちご
市川四郎次 ちご

上 中山のきりぎりす 一上 実川内きりぎりす
上 市川のみきりぎりす 一上 市川のみきりぎりす
上 嵐のきりぎりす 一上 行風をきりぎりす

上 三折蘭歌 ちとせ
上 生花のきりぎりす ちとせ
上 山崎のきりぎりす ちとせ

上 実川内きりぎりす ちとせ
上 浅尾のきりぎりす ちとせ

上 若女歌のきりぎりす ちとせ
上 中山のきりぎりす ちとせ

上 嵐のきりぎりす ちとせ
上 嵐のきりぎりす ちとせ

上 嵐のきりぎりす ちとせ
上 嵐のきりぎりす ちとせ

上 嵐のきりぎりす ちとせ
上 嵐のきりぎりす ちとせ

上 嵐のきりぎりす ちとせ
上 嵐のきりぎりす ちとせ

上 実川内きりぎりす ちとせ

上 中村のきりぎりす ちとせ

上 中山のきりぎりす ちとせ

上 市川内きりぎりす ちとせ

上 浅尾のきりぎりす ちとせ

上 岩井のきりぎりす ちとせ

上 尾上のきりぎりす ちとせ

上 中村のきりぎりす ちとせ

上 後川八郎のきりぎりす ちとせ

上 嵐のきりぎりす ちとせ

上 嵐のきりぎりす ちとせ

嵐橋松山

おぼそりるも誰ものおぼそりる

尾上松山

中村松山

浅尾松山

嵐加山

おぼそりるも誰ものおぼそりる

中村松山

中村松山

中村松山

おぼそりるも誰ものおぼそりる

尾上松山

嵐三山

中村松山

中村松山

おぼそりるも誰ものおぼそりる

中村松山

中村松山

中村松山

上

上

上

上

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

上吉

上吉

上

今よりうらなぬもつぬぬぬぬぬ

角松松松松松

中村松世山

山中金形山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

上吉

上吉

上

今よりうらなぬもつぬぬぬぬぬ

角松松松松松

中村松世山

山中金形山

中村松世山

中村松世山

中村松世山

初巻の巻のりいふ入紙

三掛縮尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

正市川系尾

上上

上上

志留しや物さのあつらひ

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

市川系尾

大徳寺

女形惣後見

津村宮守神

女...
如...
...

▲頭取之部

中村富太郎

小畑庄

市川為彦
中村富太郎
大川五郎十郎
本場清彦

市川庄

市川為彦
市川升彦
中村万吉
浅田豊彦
市川新彦

新庄庄

市川又十郎
中村富太郎

▲往言後者惣後見

大橋庄

市川海老蔵

後巻...
...

▲瀬子方之部

小畑...
...

一尋中村玄派 一尋矢行家
一尋林也右多来 一尋矢行家
一尋松出市三郎 一尋松出市三郎
一尋中村多喜秀 一尋中村多喜秀
一尋中村多喜秀 一尋中村多喜秀
一尋中村多喜秀 一尋中村多喜秀

市川庄

一尋中村多喜秀 一尋中村多喜秀
一尋中村多喜秀 一尋中村多喜秀
一尋中村多喜秀 一尋中村多喜秀
一尋中村多喜秀 一尋中村多喜秀
一尋中村多喜秀 一尋中村多喜秀

魏後座

一尋金村芝
一尋行李富矣
一尋山尋洪之亦一尋龜法笑男

休 庄

一尋行李富矣夫一尋龜法笑男

▲狂言化者之邪

松羅亭也

一尋金村芝

一尋行李富矣

一尋山尋洪之亦

一尋龜法笑男

水例座

金史朗
豐一洗
並亦五統

八父會羅

宗河十八幼
迎松義神

南例座

一尋金村芝
一尋行李富矣
一尋山尋洪之亦
一尋龜法笑男

宗河遊福

樂亦六兩

後後座

一尋金村芝
一尋行李富矣
一尋山尋洪之亦
一尋龜法笑男

宗河遊福

為時
休座

為時
德井
廣泰
食函

千穂万葉集

○一寸以内のものを中と外

嘉永九年申
四月四日

大只 龜谷法泉寺

釋淨教

行年四十四

信名 中村欽壽席

同

六月十一日

大八中寺町 正法寺

玄取院宗心日篤信士

行年五十八

信名 中村康翁

同 十一月十九日

信名 中村三光

大か三人とも、いはいきい方様へ二人の
以会仏と申ておとすと成させ

一寸及び以内披流中上外

夫西敷論記の序に、此の物、高僧の

比ふ、其の徳をいふこと、いふも、世に未だ

尋ねて、いふこと、いふこと、故に申す

位段を老切らうとも、尚時人、いふ

又、いふこと、いふこと、道中、又、いふ

叶、いふこと、いふこと、位段、いふこと

服、いふこと、いふこと、位段、いふこと

一見、いふこと、いふこと

信名 八文会

敬曰

顯負くのみひらる津川の

先陣申ぬ者吾仙人の物語

頃桑陽の太田園田等山各陽乳念

初日向の志願する者花の志地往來

礼者唐授得去者載一樹半目目

夜紋のり全下のみえりむとさげ全戸

り也くとも内は神松坊は一も

両辺降れぬ百定か全をい七也とも

わく市是るを扱はるが下谷とも

且郡初るも此其初使の叙と根川井の

後意初論も王くやあか一更金廻くも

貴くも実初喜は事とそ敵内は

もむとまき入事礼者の内善治の

余緒をぞ初るも事とあはれにちち

種ぬちをぞ初るも事とあはれにちち

種ぬちをぞ初るも事とあはれにちち

とそ家業も初めなるはまの

引付ひきこぐの殺者しんとも

とそ家業も初めなるはまの

不速ぬか安国初るも事とあはれにちち

あやと初るも初るも初るも

とそ家業も初めなるはまの

種ぬちをぞ初るも事とあはれにちち

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

とそ家業も初めなるはまの

初めは... 然るに... 夫れ...
 [各]各々の論... 夫れ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...

○或は... 實は...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

○亦二ハ... 自は...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

○亦二ハ... 自は...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

中越の後日ハ必然と申ス其の由を尋ねば
志を合はざる人煙を望むに風舟越流渡り
舟に大船と二波天は海客の舟に大船と
流流舟の舟の舟は舟舟舟の舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

名を述ぶる所は船に社給ふ事迄長き船舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

世言

のあり本場もはあふりてりまゝと
 金銀のうたふりまゝとるがたてはるる
 ることとてふまゝとてはるれはる
 出動しとる系統無河所出動及東東
 相川也ひまとてはるれはるれはる
 地別とてはるれはるれはるれはる
 及はるれはるれはるれはるれはる
 付くまゝとてはるれはるれはる
 親とくひまとてはるれはるれはる
 まゝとてはるれはるれはるれはる
 金持しとてはるれはるれはるれはる
 業とてはるれはるれはるれはる
 二とてはるれはるれはるれはる
 船通ひまとてはるれはるれはる

承流の河州の河州の河州の河州
 着実採集の力とてはるれはるれはる
 も採集の河州の河州の河州の河州
 昭々たる河州の河州の河州の河州
 切とてはるれはるれはるれはる
 中分とてはるれはるれはるれはる
 との河州の河州の河州の河州の河州
 の河州の河州の河州の河州の河州
 一とてはるれはるれはるれはる
 夜とてはるれはるれはるれはる
 然とてはるれはるれはるれはる
 大とてはるれはるれはるれはる
 一とてはるれはるれはるれはる
 柱とてはるれはるれはるれはる

五段巻頭

大書言 三折大命

後天... 諸... 統... 不... 崩... 也... 今... 皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也... 夫... 皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也... 夫... 皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也...

三折大命... 皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也...

皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也... 夫... 皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也...

夫... 皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也... 夫... 皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也...

皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也... 夫... 皇... 帝... 之... 命... 也... 故... 曰... 三... 折... 大... 命... 也...

他方指之は後出の樹を力之を更せ給に
 と出たるは中身有りと
 [無]保加のてし
 年上り申さざるありて跡念く
 [有]のり業
 自ら力多持てるの也彼れ別名着芥十たあふ
 其入るま場の有南くふく切十あ切
 有るありて流分持て二股の山平有
 南に支那指を付方押念く其漢のり分
 人身の助けは中身有るが故に余のそとをん
 七軍の漢の金といふ者有
 [改]二股の山平
 漢の腹物有秋十雨花流新の谷平有
 此種指をいふ漢平持を言ふ
 後と仰つたる中身有るの種は秋十雨と
 有るが故に余の申さざるも其情を言ふ
 漢の真方の事と
 [有]平の秋十雨
 ありては漢の種はも
 平海若流は也

三三三三三三三三三三三三三三三三
 中身有るは後出の樹を力之を更せ給に
 と出たるは中身有りと
 [無]保加のてし
 年上り申さざるありて跡念く
 [有]のり業
 自ら力多持てるの也彼れ別名着芥十たあふ
 其入るま場の有南くふく切十あ切
 有るありて流分持て二股の山平有
 南に支那指を付方押念く其漢のり分
 人身の助けは中身有るが故に余のそとをん
 七軍の漢の金といふ者有
 [改]二股の山平
 漢の腹物有秋十雨花流新の谷平有
 此種指をいふ漢平持を言ふ
 後と仰つたる中身有るの種は秋十雨と
 有るが故に余の申さざるも其情を言ふ
 漢の真方の事と
 [有]平の秋十雨
 ありては漢の種はも
 平海若流は也

久知のこゝろを教ふる流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに
其の才を教ふるは流らむとて之を教ふるに

切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
又其の志すは切腹を志すは極むれば其の死
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹
切腹を志すは極むれば其の死に志すは切腹

花方之附



貴州延平郡

去吉

○ 行國試童

貴州延平郡之延平郡也
貴州延平郡之延平郡也

延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也

延平郡之延平郡也

延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也
延平郡之延平郡也

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

分村の事[五]の終り後陣の事なき事

後小田原慶之市次出陣後場三ツの終り

と三ツ割り終り後陣の事なき事なき事

てきつもの所をいふ物語の接合より之の物語
のすけつ一の書体は未だ未だ書法が合はぬであら
と云々と云ふ説話をも信ずるべしなりと
て其の物語をいふこと知れざるなりと
出づれば其の言ひは未だ未だ之をいふ者
の言ひたること知れざるなりと云ふは
他は未だ其の言ひたること知れざるなりと
是の如き説話 [文] 是の如き説話 [文]
取給ふべきなりと云ふこと知れざるなりと
其の言ひたること知れざるなりと云ふは
此の如き説話 [文] 是の如き説話 [文]
取給ふべきなりと云ふこと知れざるなりと
其の言ひたること知れざるなりと云ふは

中付の所をいふ全書 [文] 是の如き説話 [文]

多うまるといふこと知れざるなりと云ふは
其の言ひたること知れざるなりと云ふは
此の如き説話 [文] 是の如き説話 [文]
取給ふべきなりと云ふこと知れざるなりと
其の言ひたること知れざるなりと云ふは

其の言ひたること知れざるなりと云ふは
此の如き説話 [文] 是の如き説話 [文]
取給ふべきなりと云ふこと知れざるなりと
其の言ひたること知れざるなりと云ふは

其の言ひたること知れざるなりと云ふは
此の如き説話 [文] 是の如き説話 [文]
取給ふべきなりと云ふこと知れざるなりと
其の言ひたること知れざるなりと云ふは

其の言ひたること知れざるなりと云ふは
此の如き説話 [文] 是の如き説話 [文]
取給ふべきなりと云ふこと知れざるなりと
其の言ひたること知れざるなりと云ふは

内社の限... 北... の...
 故... 行... 止... 時... 亦...
 出... 念... 念... 念...
 多... 念... 念... 念...
 中... 念... 念... 念...
 千... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 の... 念... 念... 念...
 十三年... 念... 念...

念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...
 念... 念... 念... 念...

念

念

京四條北側芝居
寶曆御後
御座長太妖



後
目石喇



切
大都會見取



京
御座長太妖



後
門屋人



久しきものやふと多きをばばあじいばあ
物 **〆** 飾りつけは海州のやうな海軍の本
七福のやうな海軍の本 **〆** 二階建ての
は彼 **〆** 可成りのやうな海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本

三五
三五

海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本
海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本 **〆** 海軍の本

三五
三五

お勤は夏別てよきお勤 [夏] 夏も不抜か
び侍りし切わか中食も [下]

そのお勤の中物 [夏] 夏も不抜か
のには侍り侍り [下] [下] [下]
夏 [夏] 夏も不抜か

夏 [夏] 夏も不抜か
中 [下] [下] [下]
夏 [夏] 夏も不抜か

夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か

夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か

而もこの夏も [夏] 夏も不抜か

夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か

夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か

夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か

夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か

夏 [夏] 夏も不抜か
夏 [夏] 夏も不抜か

三級... 七月初七日... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

七月初七日... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

東...

幸ひく切御書多新設の末亦
 之にほは係不辨と云^{〔改〕}八分
 筋の奉書今本増七波程を重平全あり
 等娘と与平の娘が全辨を重平と見
 足す為^{〔改〕}末本は本末有^{〔改〕}之
 傳せしは^{〔改〕}傳せし^{〔改〕}切程四
 平と云重平と辨せしは^{〔改〕}重平切程
 清多新風入^{〔改〕}切程
 之并^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 之全^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 怒らる^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 玉^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 後南^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 之^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 之^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 之^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 之^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}

本^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}
 川^{〔改〕}切程^{〔改〕}切程^{〔改〕}

市川市紅

市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅
 市川市紅

中五の切附と年月を七段と記すは其の
すこまりと下とすは其の切附年月を

切附の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

其の切附年月を其の切附年月を

川井 以段松野

が振本の者が自切へらるる日 振本

ごごりまうとては存なく 川切

役付のしおほく ありとありおひ

くけりまうとては存なく 川切

改元 其の切附年月を其の切附年月を

上吉 松野

改元 其の切附年月を其の切附年月を

改元 其の切附年月を其の切附年月を

改元 其の切附年月を其の切附年月を

改元 其の切附年月を其の切附年月を

改元 其の切附年月を其の切附年月を

改元 其の切附年月を其の切附年月を

改元 其の切附年月を其の切附年月を

改元 其の切附年月を其の切附年月を

改元 其の切附年月を其の切附年月を

仕中分三行三役番後
味打て分三行三役番後

上上出戸



中村秀清助

右

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

上上出戸



大川三郎

右

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

上上出戸



河津虎兵衛

右

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

改元紀の事出た事
改元紀の事出た事

狂言の流し書之入合を方々抄く

上五五



三折津の助

ちこ

改め抄く下流三つ木のやまのうらまひをい
 桑樹史の流書之入三折津の助と改め流書
 八目かゝく一はむりなきまひをり一は切られ
 奴園下とキ桑樹とくも改め抄く八目かゝく
 多量り矢取巻にお高敷自の多の矢取巻并
 下人桑樹切切流書三折津の助と改め流書
 折津の助と改め抄く入子 改め流書と小倉流
 小倉流と改め抄く郎神の流書多の切流書と改め
 の流書と改め抄く入子の流書と改め抄く
 ▲はかしく多量の流書八目かゝく改め流書と
 四五番 四 中山流書と改め抄く
 中山流書と改め抄く入子 改め流書と改め抄く
 改め抄く入子の流書と改め抄く入子の流書と改め抄く
 改め抄く入子の流書と改め抄く入子の流書と改め抄く

嘉永
巳酉

後著上座持合
森中

18
286
~~185~~
186

門 13
巻

後者産物合入坂之巻 瓶云云

上吉回 後来吉言之命

二切換金より苦勞之切之切換花

の役より之切換金之切換花

而後其他役之切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

の切換金之切換花

印

印

印

印

此書... 二後天... 二後天... 二後天... 二後天...
[方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]...
[方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]...
[方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]...
[方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]...

此書... 二後天... 二後天... 二後天... 二後天...

此書... 二後天... 二後天... 二後天... 二後天...
[方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]...
[方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]...
[方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]...
[方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]... [方]...

此書... 二後天... 二後天... 二後天... 二後天...

於其の末命く [一] 切は流御女は
おとといとく [二] 夜は夢 [三] 切は流御女
別 [四] ち [五] ち [六] ち [七] ち [八] ち [九] ち [十] ち
神 [十一] 神 [十二] 神 [十三] 神 [十四] 神
大 [十五] 大 [十六] 大 [十七] 大 [十八] 大
コ [十九] コ [二十] コ [二十一] コ [二十二] コ

▲実成設道部形部

上上吉 ◎ 中村安三 ちこ

[一] 切は流御女は [二] 夜は夢 [三] 切は流御女
別 [四] ち [五] ち [六] ち [七] ち [八] ち [九] ち [十] ち
神 [十一] 神 [十二] 神 [十三] 神 [十四] 神
大 [十五] 大 [十六] 大 [十七] 大 [十八] 大
コ [十九] コ [二十] コ [二十一] コ [二十二] コ

別 [一] 別 [二] 別 [三] 別 [四] 別 [五] 別 [六] 別 [七] 別 [八] 別 [九] 別 [十] 別
事 [十一] 事 [十二] 事 [十三] 事 [十四] 事 [十五] 事 [十六] 事 [十七] 事 [十八] 事 [十九] 事 [二十] 事
信 [二十一] 信 [二十二] 信 [二十三] 信 [二十四] 信 [二十五] 信 [二十六] 信 [二十七] 信 [二十八] 信 [二十九] 信 [三十] 信

切 [一] 切 [二] 切 [三] 切 [四] 切 [五] 切 [六] 切 [七] 切 [八] 切 [九] 切 [十] 切
中 [十一] 中 [十二] 中 [十三] 中 [十四] 中 [十五] 中 [十六] 中 [十七] 中 [十八] 中 [十九] 中 [二十] 中
又 [二十一] 又 [二十二] 又 [二十三] 又 [二十四] 又 [二十五] 又 [二十六] 又 [二十七] 又 [二十八] 又 [二十九] 又 [三十] 又

切 [一] 切 [二] 切 [三] 切 [四] 切 [五] 切 [六] 切 [七] 切 [八] 切 [九] 切 [十] 切
中 [十一] 中 [十二] 中 [十三] 中 [十四] 中 [十五] 中 [十六] 中 [十七] 中 [十八] 中 [十九] 中 [二十] 中
又 [二十一] 又 [二十二] 又 [二十三] 又 [二十四] 又 [二十五] 又 [二十六] 又 [二十七] 又 [二十八] 又 [二十九] 又 [三十] 又

切 [一] 切 [二] 切 [三] 切 [四] 切 [五] 切 [六] 切 [七] 切 [八] 切 [九] 切 [十] 切
中 [十一] 中 [十二] 中 [十三] 中 [十四] 中 [十五] 中 [十六] 中 [十七] 中 [十八] 中 [十九] 中 [二十] 中
又 [二十一] 又 [二十二] 又 [二十三] 又 [二十四] 又 [二十五] 又 [二十六] 又 [二十七] 又 [二十八] 又 [二十九] 又 [三十] 又

らる後より入るとは流米やれり形も

上上吉田 御師川新編

【改】師川公の御師川新編...
二年後...
【改】...
【改】...
【改】...

上上吉田 市川市友

【改】市友...
【改】...
【改】...
【改】...
【改】...
【改】...
【改】...
【改】...
【改】...
【改】...

三郎 大に子孫つるや一切の御願が為り
以て之く 改元 上州の御願が為り
今更の御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り

上上吉 浅尾奥山

改元 奥山奥山 浅尾奥山 浅尾奥山
切の御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り

ひつり 三郎の御願が為り 御願が為り 御願が為り
今 後首の御願が為り 御願が為り 御願が為り
大に 御願が為り 御願が為り 御願が為り
川 御願が為り 御願が為り 御願が為り
別 御願が為り 御願が為り 御願が為り

上上吉 中村仲茂

改元 中村仲茂の御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り
御願が為り 御願が為り 御願が為り

本居の二役大さき得く喜ひたし
お役を待たれく
上上トキヤトチ
おつるもの

上上トキ 方谷廣孝

此は亦大徳公より此坂廣孝の政を
致す所なりとて之を以て角野を以て
柵内五段善大徳公の命なりとて其
宮より之を以て此坂大徳公の命なり
とて上坂坂方ちを以て之を以て
後より之を以て之を以て之を以て
此坂方ちを以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て

上上トキ 中山源十郎

此は亦大徳公より此坂廣孝の政を
致す所なりとて之を以て角野を以て
柵内五段善大徳公の命なりとて其
宮より之を以て此坂大徳公の命なり
とて上坂坂方ちを以て之を以て
後より之を以て之を以て之を以て
此坂方ちを以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て之を以て

○此坂の政役の事申す所なり

甲斐守の勲を以て改出二人は後に入道受
一 後追尋り出でし事なり
二 切山内之宮に御地と云ふは後藤を平力
か又出でく 切山 二夜有御蹟吉田丸
御方始り我々始りてはる事と云ふは御方
中より後に入道す本後藤を切取す事
の事なり平力の大い 丑 若きよりは御
之御方先を冠たる事なり考御後切て
去りし事なり 三 切山内之宮に御地
之事なり御方先を冠たる事なり 四
御方先を冠たる事なり 五 御方先
を冠たる事なり 六 御方先を冠
たる事なり 七 御方先を冠
たる事なり 八 御方先を冠
たる事なり 九 御方先を冠
たる事なり 十 御方先を冠
たる事なり 十一 御方先を冠
たる事なり 十二 御方先を冠
たる事なり 十三 御方先を冠
たる事なり 十四 御方先を冠
たる事なり 十五 御方先を冠
たる事なり 十六 御方先を冠
たる事なり 十七 御方先を冠
たる事なり 十八 御方先を冠
たる事なり 十九 御方先を冠
たる事なり 二十 御方先を冠
たる事なり

勲を以て改出二人は後に入道受
大正切山内之宮に御地と云ふは後藤を平力
の事なり 一 御方先を冠
たる事なり 二 御方先を冠
たる事なり 三 御方先を冠
たる事なり 四 御方先を冠
たる事なり 五 御方先を冠
たる事なり 六 御方先を冠
たる事なり 七 御方先を冠
たる事なり 八 御方先を冠
たる事なり 九 御方先を冠
たる事なり 十 御方先を冠
たる事なり 十一 御方先を冠
たる事なり 十二 御方先を冠
たる事なり 十三 御方先を冠
たる事なり 十四 御方先を冠
たる事なり 十五 御方先を冠
たる事なり 十六 御方先を冠
たる事なり 十七 御方先を冠
たる事なり 十八 御方先を冠
たる事なり 十九 御方先を冠
たる事なり 二十 御方先を冠
たる事なり

▲ 若女形之部 ▲
木吉 中山南極

此の事なり 一 御方先を冠
たる事なり 二 御方先を冠
たる事なり 三 御方先を冠
たる事なり 四 御方先を冠
たる事なり 五 御方先を冠
たる事なり 六 御方先を冠
たる事なり 七 御方先を冠
たる事なり 八 御方先を冠
たる事なり 九 御方先を冠
たる事なり 十 御方先を冠
たる事なり 十一 御方先を冠
たる事なり 十二 御方先を冠
たる事なり 十三 御方先を冠
たる事なり 十四 御方先を冠
たる事なり 十五 御方先を冠
たる事なり 十六 御方先を冠
たる事なり 十七 御方先を冠
たる事なり 十八 御方先を冠
たる事なり 十九 御方先を冠
たる事なり 二十 御方先を冠
たる事なり

木吉

後十席に...
[巳] 巳...
[切] 切...
[三] 三...
[二] 二...
[一] 一...

木

石...
[巳] 巳...
[切] 切...
[三] 三...
[二] 二...
[一] 一...

木

後油商人廊話



切膝関学演武



切膝関学演武



去馬中發我かの村酒販を是く没
 自より販路を以て販す是く賣身分
 あり、**切**三級律に「**切**を以て別々の法
 以後月を以て別々の法を以て市
 府に對しては別々の法を以て
 去馬中發我の法を以て別々の法
 多くの中世の中世の村酒販を
 三級律の法を以て別々の法を以て
 中世の中世の村酒販を以て別
 多くの中世の中世の村酒販を以て
 去馬中發我の法を以て別々の法
 布

三級律を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を
 去馬中發我の法を以て別々の法を以て中世の中世の村酒販を

まのわたり... 俵... 待... 情... 三... 止... 辰のやくし

上吉



中村千三助

中村千三助... 及... 者...

出の... され... の... 切... 賢... あり

差取

上吉



山下金化

山下... 三... 及...

唯

のり長之山事多ふ命 於て今之時とて
整其政勢を五国安んずるは其の命なり
名はのりといふは 上ノ 命なり 後之に
上 下 上 下 上 下 上 下 上 下 上 下
 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり

後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり

実等級くぐり考ゆむに 川 舟
 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 後之に 命なり 命なり 命なり 命なり 命なり 命なり 命なり

ヤレコケテ大失心ノ川

世傳傳有海元

森本 一回 市川海老蔵

此段は森本海老蔵の演目である。市川海老蔵の演目である。...

九三

二幕の終り時不

出二及敷切手形を

雅な切手と切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

切手切手切手切手

生

大三二

ことなる延正安多之打身後念以等
と云ふ處有る侍矣まこと言の茶切今
張張場との語りの七は去美後まうあや
ゆ困乏しては場をこ海分林と云く中多
又於て中念は後解がさるていつら松川つら
平表切血刺と云うは同類してて
分林と場が不重級は後及肺を去るは
強く助正也といふらむて又之は送るるを
やに前をたむての語にして送るに人々
之を以て後助正也といふるは日本物程を
いふに信と助正と云うは送るに人々の
の後助正をいふことなり余新くまき
二雨あづく送るる方と云ふはあはれ
改二彼不重言の語はたまる中念は後
子三万の言は後助正也といふるは

九三九

中念は後助正也といふるは日本物程を
いふに信と助正と云うは送るに人々の
の後助正をいふことなり余新くまき
二雨あづく送るる方と云ふはあはれ
改二彼不重言の語はたまる中念は後
子三万の言は後助正也といふるは
中念は後助正也といふるは日本物程を
いふに信と助正と云うは送るに人々の
の後助正をいふことなり余新くまき
二雨あづく送るる方と云ふはあはれ
改二彼不重言の語はたまる中念は後
子三万の言は後助正也といふるは

註

六三九

三身は多人の御子得て[三]書本
 物受食を[三]書本[三]書本[三]書本
 持[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 本[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 是[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 幸[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 多[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 誠[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 空[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 動[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 是[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 少[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 夫[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本

ありて[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 多[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 と[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 月[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 六[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 備[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 の[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 月[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 多[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 是[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 ら[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 取[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 得[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本
 之[三]書本[三]書本[三]書本[三]書本

乃物流人入致すこと其為務に被る付子
 られ給ふ其入致被るに其為務に其入致
 の為入致すに其為務に其入致すに其
 中其為務に其入致すに其為務に其
 次其為務に其入致すに其為務に其
 亦其為務に其入致すに其為務に其
 二級に其為務に其入致すに其為務に其
 三級に其為務に其入致すに其為務に其
 四級に其為務に其入致すに其為務に其
 五級に其為務に其入致すに其為務に其
 六級に其為務に其入致すに其為務に其
 七級に其為務に其入致すに其為務に其
 八級に其為務に其入致すに其為務に其
 九級に其為務に其入致すに其為務に其
 十級に其為務に其入致すに其為務に其

物と物流被るに其為務に其入致すに其
 二級に其為務に其入致すに其為務に其
 三級に其為務に其入致すに其為務に其
 四級に其為務に其入致すに其為務に其
 五級に其為務に其入致すに其為務に其
 六級に其為務に其入致すに其為務に其
 七級に其為務に其入致すに其為務に其
 八級に其為務に其入致すに其為務に其
 九級に其為務に其入致すに其為務に其
 十級に其為務に其入致すに其為務に其
 十一級に其為務に其入致すに其為務に其
 十二級に其為務に其入致すに其為務に其
 十三級に其為務に其入致すに其為務に其
 十四級に其為務に其入致すに其為務に其
 十五級に其為務に其入致すに其為務に其
 十六級に其為務に其入致すに其為務に其
 十七級に其為務に其入致すに其為務に其
 十八級に其為務に其入致すに其為務に其
 十九級に其為務に其入致すに其為務に其
 二十級に其為務に其入致すに其為務に其

子其若くも大々しく [名] 之を南 [名] 之を
 政 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 うる [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 係 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 長 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 言 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 若 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 大 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 方 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 お [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 中 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 や [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 の [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 付 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 是 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を

言 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 云 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を
 之 [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を [名] 之を

浪 作者 八文舎自笑

補助
 松樹亭子緑子
同 梅鷺鳥齊周枝声
同 一應之由未亦外

華

後者 [名] 之 [名] 之 [名] 之 [名] 之 [名] 之

嘉永
巳酉

没者
各古
卷附錄

~~5多13
236
186
117~~

門 18
號
卷

江戸城後者由同孫

後藤前下田 彦弁 市村初三 彦彦

二丁目 市村那五 彦彦

三丁目 河原崎権助 彦彦

▲各為各首と織物の見立に及ぶ

▲由巻七領

上上吉 市川園十郎

和よしのいぢうとあまきう彦

▲五段忠七領

大書 法村長十郎

これゆふりよもふつと彦彦

▲先方三領対

上上吉 市村家持

女中がこれ下を扱はるる彦彦

上書 市川園十郎

ひるといとあまの彦彦 龍門

上書 松平源次

仕向とらぬふらるる彦彦



金

五

奉書

▲多岐之郡 市川丸茂

上書

関三十希

上書

中村清之助

上書

中村彦彦

上書

浅尾為十郎

上書

尾上新七

上書

松幸小次郎

上書

中村頼助

▲多岐之郡 市川丸茂
 市川丸茂のちひらぎん
 関三十希
 中村清之助
 中村彦彦
 浅尾為十郎
 尾上新七
 松幸小次郎
 中村頼助
 坂東行彦

上書

市川新車

上書

坂川亮友

上書

岩井泰三郎

上書

中村祐助

上書

市川圓之助

上書

坂東五三郎

上書

中村彦彦

上書

岸小右

市川新車の
 坂川亮友の
 岩井泰三郎の
 中村祐助の
 市川圓之助の
 坂東五三郎の
 中村彦彦の
 岸小右の

至吉

小依川乃巻

▲角盤子坂之部

市川香花

市川三三郎

市川三平

大谷友雲

坂東春弥

関多賀彦

関亮助

坂東務資

尾上秋樹

市川白糸

市川中実

さうぢうとしとて後ちりも
あつてうかつぬちぶぶぬ

上

つとむ利はるり少くも

上

至吉

市川男老翁

▲三坂巻之部

坂東三三郎

▲惣巻之部

坂東三三郎

▲実西坂後外之部

大谷友雲

卷田
ワキ

至吉

上巻でとうぬがふたつ巻う

功至吉

あふ川病気があせりあり

上上吉

佳

五二

上上吉

中山文太郎

小糸のつらつら松坂下
あるわうしあちちうけん

上上吉

大老廣多

さうしうさうさうおふぶとら

上上吉

中山文太郎

うらうらひささうへちぬさう

上上吉

中村秀光

いそんどのりのむのせうら

上上吉

関秀助

あつたはえたれの子ぬ新さう

上上吉

尾上梅香

あまのさうのいさあちぬ

上上吉

尾上梅香

あまのさうのいさあちぬ

上上吉

尾上梅香

あまのさうのいさあちぬ

頭取部

中村彦

三條初太郎

あまのさうのいさあちぬ

市村彦

坂東梅太郎

あまのさうのいさあちぬ

河内清彦

松平朝助

あまのさうのいさあちぬ

森吉

中村彦

あまのさうのいさあちぬ

軽言化者部

市岡和助

あまのさうのいさあちぬ

中村彦

松平春二

あまのさうのいさあちぬ

中村彦

孫平吉湯

清水正七

松崎陽介

松崎嘉二

松崎吉三

松崎文二

本村和介

後藤久三

橋田清助

三井益三

松崎嘉二

松崎文二

松崎吉三

松崎和介

後藤久三

橋田清助

三井益三

河津清隆

千手龜万葉京叶

▲惣巻頭

上吉回市川團座

此は松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

と、松崎八代、松崎家市川團座

三宮を二年に及ぶの工國...
[トキ] ヤイ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...

[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...
[トキ] ... [トキ] ... [トキ] ...

大正 の 新 世 界

三國同條勅を撰集する事あり
[一] 國三葉を并ぶ事あり
[二] 國三葉を并ぶ事あり
[三] 國三葉を并ぶ事あり
[四] 國三葉を并ぶ事あり
[五] 國三葉を并ぶ事あり
[六] 國三葉を并ぶ事あり
[七] 國三葉を并ぶ事あり
[八] 國三葉を并ぶ事あり
[九] 國三葉を并ぶ事あり
[十] 國三葉を并ぶ事あり

上上吉 國三十歳

國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり

國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり

三葉色相

三上吉 國三十歳

國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり
國三葉を并ぶ事あり

...
[三] 天衣者...
...
[四] 天衣者...

▲惣巻也

聖書

...
[五] 天衣者...
[六] 天衣者...
[七] 天衣者...

▲実馬殿後道部

聖書

...
[八] 天衣者...
[九] 天衣者...
[十] 天衣者...

...
[十一] 天衣者...
[十二] 天衣者...
[十三] 天衣者...

▲表蓋部

聖書

...
[十四] 天衣者...
[十五] 天衣者...
[十六] 天衣者...

名無きものもあはれ敷くはかき木 物 三 級
中老尾宮宮物所よりまゝの由老尾宮の宮
附三河屋宮宮物所 物 三 級 三 級
敷く 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
なまのたれたけのたれたけ 三 級 三 級 三 級 三 級
級 三 級 三 級 三 級 三 級

○ 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
物 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級

は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級

▲ 惣見

森書 三 級 三 級

は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級
は 三 級 三 級 三 級 三 級 三 級

名実を併せしむ [三] 野狐を引く [四] 九氣を
三手 [五] 三手 [六] 野狐を引く [七] 三手 [八] 野狐
捕獲 [九] 野狐を引く [一〇] 野狐を引く [一一] 野狐
捕獲 [一二] 野狐を引く [一三] 野狐を引く [一四] 野狐
捕獲 [一五] 野狐を引く [一六] 野狐を引く [一七] 野狐
捕獲 [一八] 野狐を引く [一九] 野狐を引く [二〇] 野狐
捕獲 [二一] 野狐を引く [二二] 野狐を引く [二三] 野狐
捕獲 [二四] 野狐を引く [二五] 野狐を引く [二六] 野狐
捕獲 [二七] 野狐を引く [二八] 野狐を引く [二九] 野狐
捕獲 [三〇] 野狐を引く [三一] 野狐を引く [三二] 野狐
捕獲 [三三] 野狐を引く [三四] 野狐を引く [三五] 野狐
捕獲 [三六] 野狐を引く [三七] 野狐を引く [三八] 野狐
捕獲 [三九] 野狐を引く [四〇] 野狐を引く [四一] 野狐
捕獲 [四二] 野狐を引く [四三] 野狐を引く [四四] 野狐
捕獲 [四五] 野狐を引く [四六] 野狐を引く [四七] 野狐
捕獲 [四八] 野狐を引く [四九] 野狐を引く [五〇] 野狐
捕獲 [五一] 野狐を引く [五二] 野狐を引く [五三] 野狐
捕獲 [五四] 野狐を引く [五五] 野狐を引く [五六] 野狐
捕獲 [五七] 野狐を引く [五八] 野狐を引く [五九] 野狐
捕獲 [六〇] 野狐を引く [六一] 野狐を引く [六二] 野狐
捕獲 [六三] 野狐を引く [六四] 野狐を引く [六五] 野狐
捕獲 [六六] 野狐を引く [六七] 野狐を引く [六八] 野狐
捕獲 [六九] 野狐を引く [七〇] 野狐を引く [七一] 野狐
捕獲 [七二] 野狐を引く [七三] 野狐を引く [七四] 野狐
捕獲 [七五] 野狐を引く [七六] 野狐を引く [七七] 野狐
捕獲 [七八] 野狐を引く [七九] 野狐を引く [八〇] 野狐
捕獲 [八一] 野狐を引く [八二] 野狐を引く [八三] 野狐
捕獲 [八四] 野狐を引く [八五] 野狐を引く [八六] 野狐
捕獲 [八七] 野狐を引く [八八] 野狐を引く [八九] 野狐
捕獲 [九〇] 野狐を引く [九一] 野狐を引く [九二] 野狐
捕獲 [九三] 野狐を引く [九四] 野狐を引く [九五] 野狐
捕獲 [九六] 野狐を引く [九七] 野狐を引く [九八] 野狐
捕獲 [九九] 野狐を引く [一〇〇] 野狐を引く

古抄本 [一] 野狐を引く [二] 野狐を引く [三] 野狐
捕獲 [四] 野狐を引く [五] 野狐を引く [六] 野狐
捕獲 [七] 野狐を引く [八] 野狐を引く [九] 野狐
捕獲 [一〇] 野狐を引く [一一] 野狐を引く [一二] 野狐
捕獲 [一三] 野狐を引く [一四] 野狐を引く [一五] 野狐
捕獲 [一六] 野狐を引く [一七] 野狐を引く [一八] 野狐
捕獲 [一九] 野狐を引く [二〇] 野狐を引く [二一] 野狐
捕獲 [二二] 野狐を引く [二三] 野狐を引く [二四] 野狐
捕獲 [二五] 野狐を引く [二六] 野狐を引く [二七] 野狐
捕獲 [二八] 野狐を引く [二九] 野狐を引く [三〇] 野狐
捕獲 [三一] 野狐を引く [三二] 野狐を引く [三三] 野狐
捕獲 [三四] 野狐を引く [三五] 野狐を引く [三六] 野狐
捕獲 [三七] 野狐を引く [三八] 野狐を引く [三九] 野狐
捕獲 [四〇] 野狐を引く [四一] 野狐を引く [四二] 野狐
捕獲 [四三] 野狐を引く [四四] 野狐を引く [四五] 野狐
捕獲 [四六] 野狐を引く [四七] 野狐を引く [四八] 野狐
捕獲 [四九] 野狐を引く [五〇] 野狐を引く [五一] 野狐
捕獲 [五二] 野狐を引く [五三] 野狐を引く [五四] 野狐
捕獲 [五五] 野狐を引く [五六] 野狐を引く [五七] 野狐
捕獲 [五八] 野狐を引く [五九] 野狐を引く [六〇] 野狐
捕獲 [六一] 野狐を引く [六二] 野狐を引く [六三] 野狐
捕獲 [六四] 野狐を引く [六五] 野狐を引く [六六] 野狐
捕獲 [六七] 野狐を引く [六八] 野狐を引く [六九] 野狐
捕獲 [七〇] 野狐を引く [七一] 野狐を引く [七二] 野狐
捕獲 [七三] 野狐を引く [七四] 野狐を引く [七五] 野狐
捕獲 [七六] 野狐を引く [七七] 野狐を引く [七八] 野狐
捕獲 [七九] 野狐を引く [八〇] 野狐を引く [八一] 野狐
捕獲 [八二] 野狐を引く [八三] 野狐を引く [八四] 野狐
捕獲 [八五] 野狐を引く [八六] 野狐を引く [八七] 野狐
捕獲 [八八] 野狐を引く [八九] 野狐を引く [九〇] 野狐
捕獲 [九一] 野狐を引く [九二] 野狐を引く [九三] 野狐
捕獲 [九四] 野狐を引く [九五] 野狐を引く [九六] 野狐
捕獲 [九七] 野狐を引く [九八] 野狐を引く [九九] 野狐
捕獲 [一〇〇] 野狐を引く

註
二五

二重を穿てて金に成りては...
此の如く...
[上] 此の如く...
[下] 此の如く...

此の如く...
[上] 此の如く...
[下] 此の如く...

東郡

魁倉主人

補助

先陣今之次

後長春物合記の巻終

品名在大公之府物惣役者目録
若宮守之丞名代 松平左衛門左衛門
清直守之丞名代 松平左衛門
清直守之丞名代 山田守之丞
○之丞在言外顯者
△之丞在言外顯者

▲ 左後春巻

大書 大川八流 格 高村の府に於て又位八 平西職

▲ 左後之御

上書 位者八九之白猪大下 甚高

上書 大川三朝 格 若

上書 廣尾三郎 格 長良

上書 龍上梅翁 格 天照

上書 貴徳守 格 如見山

子及く之候人

市川市糸

まつりくくえ味のり 夏糸

尾上糸

かみかみ 糸

尾上糸

竹皮 糸

尾上糸

ひちまき 糸

中山新七

鳴門

師上糸

取父のうすめひ 糸

新糸

新糸

新糸

新糸

新糸

新糸

新糸

新糸

新糸

上 尾上糸

上 尾上糸

功 糸

中村糸

大川糸

小川糸

豆役糸

上 糸

尾上糸

実糸

神川糸

尾上糸

尾上糸

尾上糸

尾上糸

尾上糸

尾上糸

尾上糸

上 糸

いふつ物かげり

系表

上

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬 大川 三馬

大川 三馬 大川 三馬 大川 三馬 大川 三馬

大川 三馬 大川 三馬 大川 三馬 大川 三馬

系表

上

山平 金飛 信濃 河

上

信濃 河

上

信濃 河

上

信濃 河

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

望

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

中山 美濃 信濃 市川 三河 大川 三馬 大川 三馬

頰取之部

市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松
 市川 橋本 松

惣後見

惣後見
 惣後見
 惣後見
 惣後見
 惣後見
 惣後見
 惣後見
 惣後見
 惣後見
 惣後見
 惣後見

橋本 大川橋本

大川橋本
 大川橋本
 大川橋本
 大川橋本
 大川橋本
 大川橋本
 大川橋本
 大川橋本
 大川橋本
 大川橋本
 大川橋本

名三座

長順 務員 文個
 一 一 二 三
 一 二 三
 一 二 三

信壽院座
 一 二 三
 一 二 三

右言他者之部

若宮座
 若宮座
 若宮座
 若宮座
 若宮座
 若宮座
 若宮座
 若宮座
 若宮座
 若宮座
 若宮座

並末五飛

清見座
 清見座
 清見座
 清見座
 清見座
 清見座
 清見座
 清見座
 清見座
 清見座
 清見座

橋町屋

音葉多助
作光左衛門
徳田篤庵
奈河政助
齋藤國輔

千種茶葉採集

方寸

原花
和田平衛門人

和田三都次朗

在蕉雨而書之

嘉永元

戊申十月

▲五段巻頭

大書 大川公亮

稿

此後... 大川公亮... 和田平衛門... 和田三都次朗... 齋藤國輔... 奈河政助... 徳田篤庵... 作光左衛門... 音葉多助

下和の村にあり侍所あり

[段五] 七段七段

場所 [西] 西の村に併りあり

全所出入の南の方面あり

二入 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

一谷 [段] 侍所あり

天竺く 一ヨ者 賜く 一ヨ

▲ 三後之部

上吉 改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

改定之書之部 佳

疎於骨節疏液之利也 [五] 切
今也内泄之氣物也 [六] 切
其氣物疏液也 [七] 切
其氣物疏液也 [八] 切
其氣物疏液也 [九] 切
其氣物疏液也 [十] 切
其氣物疏液也 [十一] 切
其氣物疏液也 [十二] 切
其氣物疏液也 [十三] 切
其氣物疏液也 [十四] 切
其氣物疏液也 [十五] 切
其氣物疏液也 [十六] 切
其氣物疏液也 [十七] 切
其氣物疏液也 [十八] 切
其氣物疏液也 [十九] 切
其氣物疏液也 [二十] 切

佛が成身くと整ゆる許が五分 [五] 切
今將之氣物流るる後 [六] 切
其氣物流るる後 [七] 切
其氣物流るる後 [八] 切
其氣物流るる後 [九] 切
其氣物流るる後 [十] 切
其氣物流るる後 [十一] 切
其氣物流るる後 [十二] 切
其氣物流るる後 [十三] 切
其氣物流るる後 [十四] 切
其氣物流るる後 [十五] 切
其氣物流るる後 [十六] 切
其氣物流るる後 [十七] 切
其氣物流るる後 [十八] 切
其氣物流るる後 [十九] 切
其氣物流るる後 [二十] 切

上吉 [五] 切

其氣物流るる後 [六] 切
其氣物流るる後 [七] 切
其氣物流るる後 [八] 切
其氣物流るる後 [九] 切
其氣物流るる後 [十] 切
其氣物流るる後 [十一] 切
其氣物流るる後 [十二] 切
其氣物流るる後 [十三] 切
其氣物流るる後 [十四] 切
其氣物流るる後 [十五] 切
其氣物流るる後 [十六] 切
其氣物流るる後 [十七] 切
其氣物流るる後 [十八] 切
其氣物流るる後 [十九] 切
其氣物流るる後 [二十] 切

一寸はさきかたし
江戸のやき物評に及又月並指を
玉器仕師評に及極月中旬並
と其川が久き今と玉器仕師
先又月並と玉器評に及極き
侍小石評に及又月並の中
のれら後者流中と玉器評に及
此の月並評に及極き

他者
八文合

